

参 考 3

川崎市シェアサイクル実証実験（補足）

1 実証実験の概要

(1) 目的

- 移動手段の一つであるシェアサイクルを活用し、アクセス性・利便性の向上等に寄与することの効果を検証するため実証実験を実施。

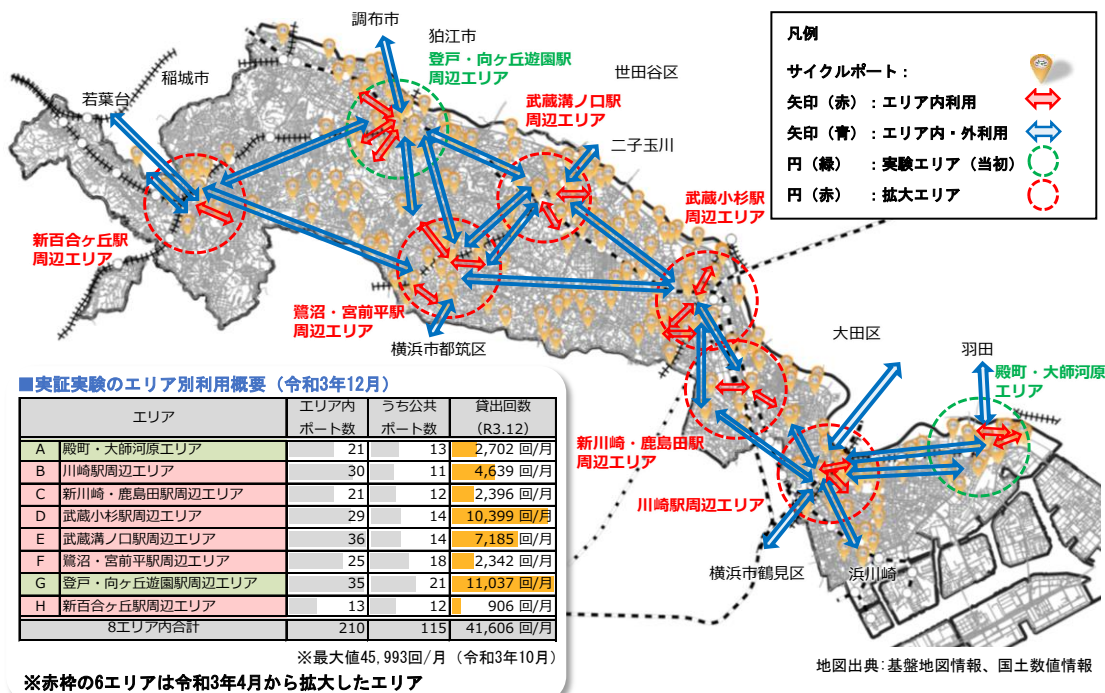
(2) 利用状況

- 利用実績として実験当初に比べて利用回数は大きく増加し、収支状況を考慮した事業性の目安となる1日1台あたりの利用回数は、1.3回であり、令和3(2021)年度(4~12月)の平均利用回数は1.4回と目安を上回り、事業性が確認できた。
- 対象エリアを拡大したことで拠点間の移動に加え、近隣都市(都内、横浜市等)からの流入、流出もあったことから、市域全体で多くの利用がされた。

【サービス規模】

実証実験の各項目		導入計画 (令和3年4月)	12月末時点
実験規模	エリア数	8エリア	8エリア
	ポート数(実験エリア内)	200箇所	210箇所
	導入自転車台数	800台	874台

【各エリアの利用状況】



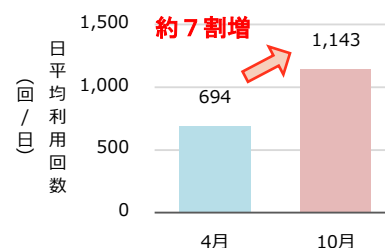
※上記エリアに加えエリア外を含めた市域全体の令和3(2021)年度平均 45,595 回/月

2 効果検証

(1) 駅周辺の利用状況

- 駅を中心としたサイクルポートでの利用について、エリアを拡大した令和3年4月から10月までの間に約7割増加し、全体利用回数のうち約6割が駅を中心とした利用があり、アクセス性・利便性の向上が図られた。

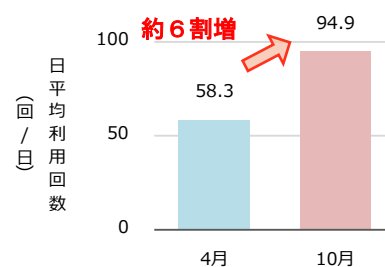
駅周辺の利用状況



(2) 公共施設周辺の利用状況

- エリアを拡大し、区役所等の公共施設へサイクルポートを設置することで、令和3年4月から10月までの間に約6割増加し、公共施設等への移動に多く利用され、アクセス性等の向上が図られた。

公共施設周辺の利用状況



(3) 利用満足度

- 利用者アンケートにおいて、「早い」、「安い」、「快適」な移動手段であることや目的地付近等にサイクルポートがあることなどにより、「手軽に利用しやすく便利」との回答が7割を超え、多くの利用者の満足が得られた。

3 まとめ

- 民間用地に加え、公共用地を活用することで、市域全体で満遍なくサイクルポートが設置され、多くの利用がされた。
- これにより、主に駅・公共施設等への移動に利用され、アクセス性・利便性の向上効果とともに、多くの利用者の満足が得られた。
- 令和3年度（4～12月）の1日1台あたりの利用回数は1.4回であり、目安となる1.3回を上回ったことから、事業性が確認できた。
- 実験結果を踏まえ、今後、民間事業者主体による本格運用へ移行する。

川崎市自転車活用推進計画

令和4（2022）年3月改定

（お問い合わせ先）

川崎市建設緑政局自転車利活用推進室

電話：044-200-2769

FAX：044-200-3979

E-mail：53ziten@city.kawasaki.jp



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市